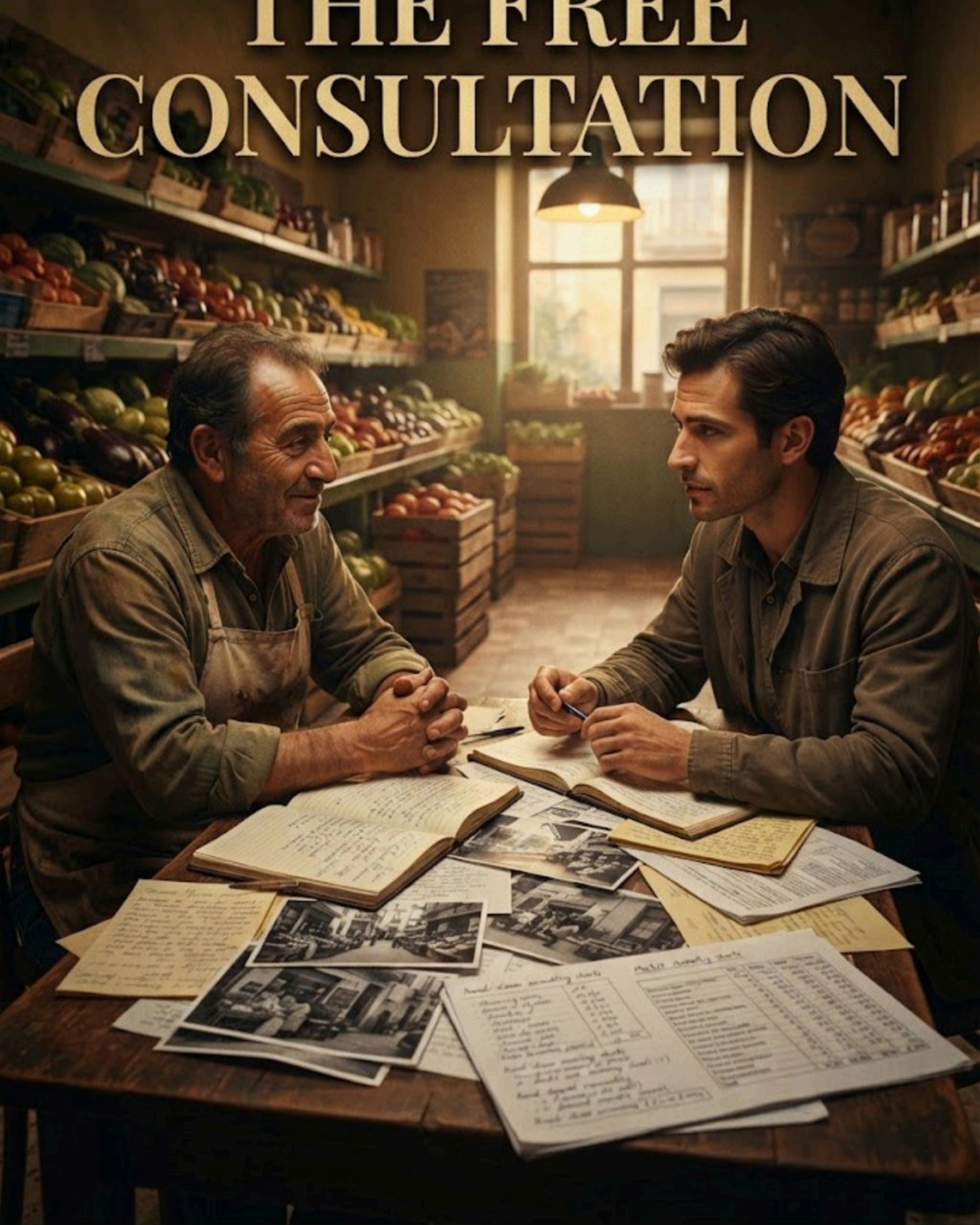


Ferdinando Frega – Nando the Scribe

THE FREE CONSULTATION



Gilletteの無料相談

フレーム

前の晩、私は行きつけの八百屋の店に着いていた。私の最初のイタリア人読者の一人である。

Gilletteサーガの一冊、『あらゆる予測の外で』という題の本を読んだと彼は言い、ナラティブの中に役を与えてくれた礼を述べたうえで、自分はどうすればいいのかと尋ねてきた。

私は彼の店のために無料相談を申し出た。果物も野菜も売ったことは一度もなく、もっぱら食べる側でしかなかったのだから。

聖なる母なるGilletteの掟に従い、最初に釘を刺しておいた。やり方は節税（法が認めるもの）であって、脱税（欲に駆られたもの）ではない—彼の市場では、多くの者が引き方を知らなかった細い一線だ。

生鮮品と非生鮮品の違い、季節商品、消費期限を私が定義していくと、彼は私を見つめながら言った。でも本当に、こういう品を売ったことがないんですか、と。

傷んだ商品を廃棄するたびに撮る、日付入りの毎日の写真は、廃棄と損失を記録するのに欠かせない。日報（日付、品目、重量）と一緒に保管された写真は、会計書類を裏づける具体的な視覚的証拠だ—税務調査で証明を揺るぎないものにするのは、これである。

生鮮品の評価—売上高の5%という上限は私自身の文学的創作で、そんな税法は存在しない。渡そうとしている道具が暴発しないよう、彼に限度を与えるためだけのものだった。

仕入先との継続的な取り決めのせいで一部の品目に返品がきかないことは、営業上の損失にあたる—既知の契約条件であり、トレーサビリティの異常としてではなく、背景事情として会計士に伝えておくべきものだ。

これらの点が、すでに用意してある日報と合わせて、会計士が正しい税務処理を定めるための土台になる。

私は会計士ではないのだと察してもらおうと話を止めると、彼は私を強く抱きしめて礼を言い、贈り物にと商品の包みをつかんだ—だが私は受け取らなかった。

ただの無料アクセスだったのだ。私のgillettenarrative.comにあるのと同じような。

フェルディナンド